



カウントダウンはじまる！

年間休日 **120日** 実施間近？！

1月29日、J S 労は「年間休日数及び労働時間短縮に関する申し入れ」について団体交渉を開催して、会社から回答を受けました。

【回答】年間休日の増加、年間労働時間の短縮は、社員の満足度向上、採用競争力の強化に繋がることは承知しており、今後の事業運営に踏まえ、適切に対応していく。

会社の回答が変化！

2024年 4月26日「現時点において、その様な考えはない」
2024年 5月14日「就業規則に基づき対応しており、現状は問題ない」
2024年 9月 3日「議論済みの内容であり、新たに伝えることはない」
2025年 4月25日「現時点において、その考えはない」
2025年 5月20日「検討した結果であり、回答を変更するつもりはない」
2025年 11月21日「今後も採用競争力等もふまえ、必要に応じて対応していく」

この様に、年間休日数120日の要求に対して、団体交渉における会社の回答が徐々に変化してきました。そして、上記で記載した【回答】となりました。最初は歯牙にもかけない回答でしたが、粘り強い交渉により回答内容が変化してきました。そして、昨年12月24日、ついにサービック労組がこの間の沈黙を破って、年間休日数に対する要求をしたのです。

労働組合の任務とは！

サービックには、サービック労組とJ S 労の2つの労働組合が存在します。どちらの組合が要求したのかが問題ではありません。なぜなら、本来、労働組合が対峙するのは会社であるからです。労働組合は、全ての労働者の労働条件を維持改善することが任務であり、そのためには、一人では弱い労働者が団結する必要があるのです。

春のダイヤ改正、春闘、夏季手当、職場諸要求などなど、今後の取り組みは山積しています。サービック労組の組合員の皆さん！J S 労の旗の元に結集しよう！